

4 - 20 相模トラフ及び駿河トラフ南部のマルチチャンネル 反射法音波探査(2)

Multichannel Seismic Reflection Profiling in the Sagami Trough and the Southern Suruga Trough Area (2)

海上保安庁水路部・地質調査所
Hydrographic Department, Maritime Safety Agency
Geological Survey of Japan

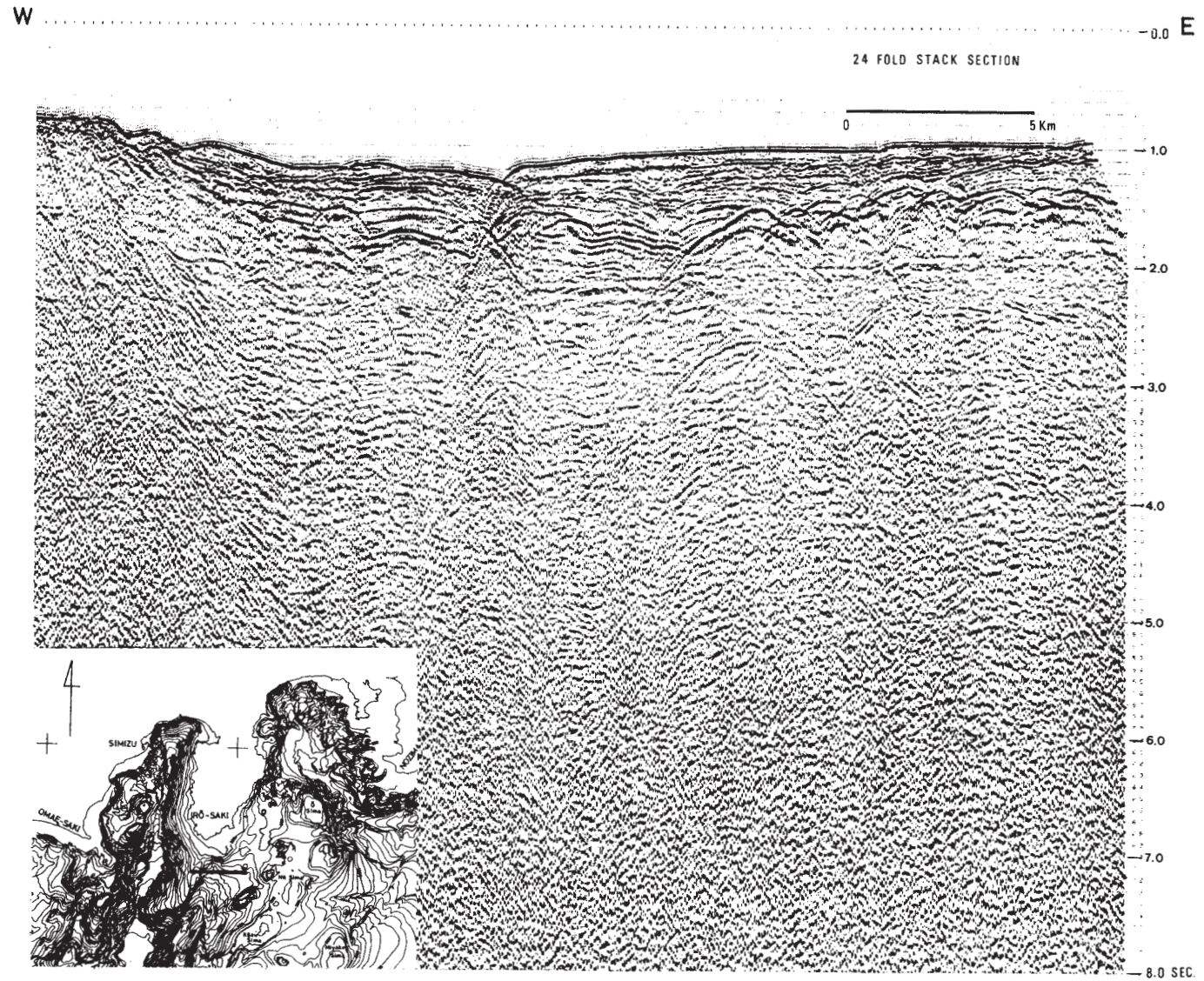
海上保安庁水路部及び地質調査所は、昭和55年9月、科学技術庁の経費により相模トラフ及び駿河トラフ南部において、マルチチャンネル反射法音波探査を実施した。相模トラフ及び駿河トラフ近傍については、前報で速報した¹⁾。今回は、この調査から明らかとなった伊豆東方線付近の構造について速報する。

アジアプレートとフィリピン海プレートの境界は、南海トラフから駿河トラフに入って伊豆半島の北をまわり、相模トラフに続くと言われている。また、プレートの境界は駿河トラフから伊豆半島と大島の間を通る伊豆東方線に転化しつつあるという考え方もある²⁾。

伊豆半島石廊崎沖の伊豆東方線を横切る測線の音波探査断面には第1図に示すように、駿河トラフ付近でみられるような沈み込みを示す構造¹⁾は認められない。従って、プレートの境界は南海トラフから駿河トラフに続いていると考えられる。この調査資料は、タイムマイグレーション等の処理を継続して実施しており、より詳細な解析を行うこととしている。

参 考 文 献

- 1) 海上保安庁水路部・地質調査所：相模トラフ及び駿河トラフ南部のマルチチャンネル反射法音波探査(1)，連絡会報，**26**（1981），212-215。
- 2) 石橋克彦：「伊豆半島東方線西相模断層」と伊豆異常隆起の解釈，地震学会，No.2（1976）。
（加藤 茂・茂木昭夫・桜井 操・中条純輔）



第1図 伊豆東方線のマルチチャンネル反射法音波探査プロファイルおよび調査測線図

Fig. 1 Multichannel seismic reflection profile across the East-off-Izu Tectonic line and the location map.